

令和4年度 立山町社会福祉協議会事業報告

長引くコロナ禍にあつて、私たちは日常生活における制限はもとより、地域福祉活動において事業の中止や、縮小を余儀なくされてきました。それに伴い、地域のつながりの希薄化や地域活動に対する住民の関心の低下が懸念されています。

また、従来からの人口減少・少子高齢化の急速な進展に加え、with コロナを経て生活困窮や社会的孤立等、顕在化してきたさらなる福祉課題により、高齢福祉、障がい者福祉、児童福祉等の各分野における福祉ニーズは、いっそう多様化・複雑化してきています。

このような状況下で、立山町社会福祉協議会では、地域や関係機関とのつながりをより重視し、皆様方のご協力のもと各場面に即したコロナ感染予防対策を講じて、可能な限りの事業実施を進めてまいりました。

加えて、当協議会の基盤強化の取り組みの一つとして、第3次立山町地域福祉活動計画（2018～2022年度）の最終年度にあたる令和4年度は、第3次活動計画の振り返りと評価を進めながら、引き続き「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる支え合いのまちづくり」を目指して地域福祉を推進していくために、令和5年度から始まる第4次地域福祉活動計画（2023～2027年度）の策定に取り組んでまいりました。策定にあたり、町内各地区での福祉懇談会での意見徴取、町民アンケート及び町内各小学校の5・6年生児童を対象にしたアンケート結果等を踏まえて取りまとめを進めました。そして、これらを通して、まさに今、各地区で暮らす住民がその地域の生活課題や強みとして捉えていること、課題解決へ向けて必要と感じていること、さらには求められている支援等が具体的に見えてきました。それらに対し、策定委員会における計画の検討や、作業委員会における客観的な視点や専門的な見地が加わることで、町内の地域福祉の現状と、今後、課題解決のために取り組むべき方向性が、さらに整理された形でまとまりました。

その他、地域住民の福祉活動拠点として、多様化・複雑化する福祉ニーズを的確にとらえて極力対応すべく、関係機関との連携や協働により、①見守り活動や地域交流の場づくりなどを中心とした小地域福祉活動の推進 ②関係機関の連携強化による在宅福祉サービスの推進 ③総合的な相談支援体制の整備・推進 ④ボランティア活動への支援 ⑤福祉教育の推進 ⑥高齢福祉事業の推進 ⑦日常生活自立支援事業の推進 ⑧出逢い応援事業 ⑨地域福祉サービス向上を見据えた一部の事業事務の効率化（ICT化）の定着、⑩家庭で余っている食品を福祉活動や生活支援に活用するフードドライブ事業 ⑪町との共催事業（福祉のフリーマーケット事業、立山町産米等活用生活者支援事業）等に努めてまいりました。

主な事業等の取り組みについては、次のとおりです。

1. 法人運営事業・その他の事業

(1) 法人運営、役員活動事業

5月	令和3年度会計監査	5月13日	元気交流ステーション
5月	理事会	5月18日	文書審議
5月	評議員選任・解任委員会	5月26日	〃
5月	理事会	5月26日	元気交流ステーション
6月	理事会	6月15日	文書審議
6月	評議員会	6月15日	元気交流ステーション
8月	理事会	8月26日	元気交流ステーション
11月	理事会	11月30日	文書審議
12月	理事会	12月9日	元気交流ステーション

12月	評議員選任・解任委員会	12月13日	文書審議
12月	評議員会	12月23日	元気交流ステーション
2月	理事会	2月27日	文書審議
3月	理事会	3月23日	元気交流ステーション
3月	評議員会	3月28日	元気交流ステーション
3月	評議員選任・解任委員会	3月31日	文書審議

(2) 共同募金活動、日赤事業、立山善意銀行事務、町遺族会事務

(3) 社会福祉協議会ホームページの開設、運営
ページビュー数 7,629回

(4) フードドライブ事業 ※日赤立山町分区、町法人連絡会との共催

家庭や職場等で余っている食品や生活用品を募集し、必要とする方へ届ける取り組みとして、各団体と連携して年2回開催した。

・R4夏季フードドライブ ※福祉のフリーマーケット事業と連携

食品募集 7月25日～10月29日 社会福祉協議会窓口

受付数 68件 食品1183個 / 日用品468個

食品配布会 8月28日 元気交流ステーション

食品セット39世帯に69セットを配布

※その他、立山町母子寡婦福祉連合会へ食品セットを贈呈

・R4冬季フードドライブ

食品募集 12月1日～12月15日 社会福祉協議会窓口

受付数 25件 食品666個 / 日用品32個

食品配布会 12月18日 元気交流ステーション

88世帯に配布

※その他、立山町母子寡婦福祉連合会へ食品セットを贈呈

個別配布 12月20日～12月28日 社会福祉協議会窓口

8世帯の配布

※上記期間以外は、生活困窮者等へ随時配布

2. 企画広報事業

令和4年度立山町社会福祉協議会表彰式において、これまで福祉の推進に功績のあった個人と団体を表彰し、より多くの町民が福祉について考える機会とした。また、記念講演会を開催し、ボランティアや福祉活動に関する理解促進を図った。

立山町社会福祉協議会表彰 11月12日 元気交流ステーション

社会福祉事業功労7名

記念講演 福祉フォーラム「地域共生社会の構築

～第4次立山町地域福祉活動計画の策定過程から見えてきたこと～

講師 富山大学学術研究部教育学系 准教授 野田 秀孝 氏

※第4次地域福祉活動計画福祉フォーラムと合同開催

※第4回福祉教育サポーター講座と共催

3. 地域福祉推進事業

(1) 地域総合福祉推進事業（ふれあい型・ケアネット型）への助成、活動強化に努めた。

地区事務局会議の開催

- ・第1回 地区社協事務局会議 4月27日 元気交流ステーション
- ・第2回 地区社協事務局会議 7月20日 //
- ・第3回 地区社協事務局会議 11月20日 //
- ・第4回 地区社協事務局会議 3月7日 //

ケアネット事業活動実績

地区社協を窓口として、支援を必要とする方や世帯を対象に、地域の支え合いによる見守り活動等を行った。

令和4年度:実施地区数	10地区	援助対象者	160名
		活動参加者数	234名
		訪問等活動延べ回数	10,017回
令和3年度:実施地区数	10地区	援助対象者	159名
		活動参加者数	291名
		訪問等活動延べ回数	11,951回

サロン事業活動実績

ふれあいいきいきサロン

地区社協を中心にふれあいいきいきサロンを開設し、高齢者の生きがいや社会参加意欲を高めた。

令和4年度:延べ	540回	参加者延べ	7,482名
令和3年度:延べ	419回	参加者延べ	6,786名

子育てサロン

地区社協単位で子育てサロンを開設し、主に未就所（園）児と家族を対象に、子育て期の不安の解消や情報交換など子育て支援を行った。

令和4年度:延べ	56回	参加者延べ	1,153名
令和3年度:延べ	48回	参加者延べ	1,102名

(2) ケアネットセンター運営事業

- ・実施地区検討会・報告会等参加 10回
- ・立山町ケアネット活動全体検討会 9月28日 元気交流ステーション 参加者36名
立山町内のケアネットリーダー・メンバーを対象に、ケアネット活動の現状や課題の共有、情報交換の場とし、活動推進を図る。

テーマ:「これからのケアネット with コロナ

～県内及び町内のケアネット活動の現状をふまえて～

助言講師:金城大学 社会福祉学部 教授 内 慶瑞氏

- ・町内居宅介護支援事業所連絡会・ケース検討会等出席 20回
- ・個別ケースの相談や会議への出席・開催 21回

(3) 福祉人材育成・支援事業

〈ふれあい活動員の配置〉

ふれあい活動員（福祉協力員）を63名配置し、サロン活動やケアネット活動への実施・協力を行った。

- ・第1回ふれあい活動員委嘱式・研修会
4月4日 元気交流ステーション 参加者53名
講義：「これまでとこれから・出番と役割」
講師：合同会社HUGKUMI 代表社員 長井一浩氏
- ・第2回ふれあい活動員研修会（まちづくり研修会として開催・おむすびくらぶ支援員と合同）
2月12日 元気交流ステーション 参加者46名

〈ふれあいいいききサロン・子育てサロン運営に伴う協力者との連携〉

各地区のふれあいいいききサロン及び子育てサロンの協力者を対象に連絡研修会を行った。

- ・ふれあいいいききサロンリーダー及び子育てサロンリーダー合同研修会
6月13日 元気交流ステーション 参加者28名
テーマ：「コロナ禍におけるサロン活動のあり方を考えよう！
～活動者間の交流及び情報交換をとおして～」
- 10月12日 元気交流ステーション 参加者21名
「干支の型抜きアート講習」

（4） 地域福祉活動計画の推進

2018年度～2022年度の5カ年を計画期間とする第3次地域福祉活動計画の推進委員会を設置し、最終年度として事業の点検・評価を行った。また2023年度～2027年度の5カ年を計画期間とする第4次地域福祉活動計画の策定を進めるため、策定委員会及び作業委員会、福祉フォーラムの開催や関係機関の意見聴取を実施した。

- ・地域福祉活動計画推進委員会 5月26日 元気交流ステーション 参加者 12名
- ・策定委員会 5月26日 3月17日
- ・作業委員会 7月1日 9月7日 10月24日 12月12日 2月28日
- ・モデル地区福祉懇談会（下段地区・利田地区） 7月9日
- ・関係機関からの意見聴取 6月～12月
- ・福祉フォーラム 11月12日
- ・令和4年度：事務局内検討会（月1回）

（5） ふれあい総合相談事業の実施

弁護士等の専門相談、民生委員児童委員による心配ごと相談等の一般相談を実施した。また事務局職員が相談援助を随時行った。町広報や社協だより「そよかぜ」に相談センターの相談日を掲載し広報に努めた。心配ごと相談員及び職員を対象に研修会を開催した。

- ・心配ごと相談員等研修会 10月17日
（行政相談員、人権擁護委員、生活支援員、福祉教育サポーターと合同）
講義：「生活困窮者支援について それぞれの役割からできることを考えよう！」
講師：富山中央法律事務所 西山貞義弁護士
元気交流ステーション 参加者32名
- ・心配ごと相談員委嘱式及び連絡会

「ふれあい総合センターの概要・心配ごと相談員の役割について」

元気交流ステーション 参加者 9名

・件数 法律相談 45 心配ごと相談 5件 職員対応相談 18件

(6) 地域公益活動への支援

町内の法人相互間の連携及び各法人それぞれがもつサービスとの連携等により、地域への貢献活動を推進するため、立山町社会福祉法人連絡会を設立した。情報や課題を共有化し、協働による活動を積極的に行った。

- ・法人連絡会及び研修会の開催 3回
- ・災害時の体制整備

フードドライブの取り組み（法人運営事業と連携）

法人連絡会として取り組みの周知及び協力（食品の提供、当日の運営協力等）

第1回 8月28日（日） 元気交流ステーション

第2回 12月18日（日） //

立山町総合防災訓練への参加（展示ブース：災害時における法人連絡会の役割）

令和4年11月19日 上東地域活性化センター

- ・福祉人材の育成
 - 2月～3月 実習生の受け入れ・指導
 - 3月8日 合同就職説明会の開催

4. 助成事業

社会福祉団体等5団体に活動費の助成を行った。

5. 在宅福祉サービス推進事業

(1) 高齢者外出支援サービスの実施

高齢者で心身の障がい及び疾病等の理由により日常的に車いすを利用している方に対し、車両と運転手を派遣し医療機関への外出支援サービスを行った。

登録者数 4名 利用延べ日数 6日 利用延べ回数 8回

6. ボランティア活動事業

(1) ボランティアコーディネーター設置事業 ボランティアセンター相談件数 653件

(2) ボランティア活性化事業

ボランティアに関する情報を社協だより「そよかぜ」の紙面や町内数か所に設置した掲示板で紹介した。また、ボランティアセンター運営委員を委嘱し、運営委員会を開催することで、事業運営の推進を図った。

(3) 調査研究事業

地域の実情に応じたボランティア活動・地域福祉活動を推進していくために、地域のニーズや課題を把握し、それらに関連したボランティア活動等について理解を深めることを目的とする。本年は、コロ

ナ禍にも対応したウェブの活用(ZOOM・LINE)等を学び、ネットワークづくりの推進やボランティア活動の充実を図る。

講義・実技 第1回「SNSで広がるネットワーク① LINEの基本を学ぶ」

2月2日(水) 元気交流ステーション 参加者14名

第2回「SNSで広がるネットワーク② LINEを使って繋がろう(ZOOMの活用)」

2月9日(水) 元気交流ステーション

講師 NPO法人PCTOOL 代表 能登貴史氏

(4) 養成研修事業

ボランティアリーダー等の育成や交流を目的にした研修会やボランティア養成講座の実施。

・ボランティアリーダー研修会 2月27日 元気交流ステーション

講義・演習 「難問解決!このまちのボランティア活動」 参加者20名

講師 富山短期大学 健康福祉学科 教授 関好博氏

・ボランティア養成講座

第1回「ボランティア読み聞かせ養成講座」11月3日 元気交流ステーション

演題 「絵本で輝く子どもの未来、優しいまち」 参加者38名

講師 高志の国文学館 事業部長 生田美秋氏

第2回 実践「絵本の読み聞かせ講座」11月26日 元気交流ステーション

講師 立山おはなしの会会員(読み聞かせグループ) 参加者9名

(5) 広報啓発事業

ボランティア活動の啓発・推進を図るため、ボランティアまつりを開催した。ボランティアグループの活動発表や体験コーナー、また登録ボランティアグループの活動紹介パネルの展示を行った。

・ボランティアまつり 11月12日 元気交流ステーション 参加者69名

(6) 児童・生徒のボランティア活動普及事業

推進校8校(小学校6校、中学校1校、高校1校)に活動費助成を行った。

(7) 福祉教育地域指定推進事業

「地域のつながりを学ぼう」というテーマに基づき、保育関係者・教育関係者・ボランティアを対象に福祉教育推進セミナーを開催した。また、担当校等との連携学習会の他、町内小学校での出前学習を行った。

・担当校との連携学習(利田小学校)

10月14日「収集活動・福祉用具・障害理解」

利田小学校3年生 35名

10月21日「町歩き(福祉・防災・地域理解)」

利田小学校3年生 35名

消火栓確認、車イスの操作、防災備蓄品の確認

・出前講座

6月14日	見守り活動		
	高野小学校	5年生	14名
9月6日	収集ボランティア活動説明		
	立山北部小学校	5年生	25名
9月30日	障害理解（身体障害）		
	立山北部小学校	5年生	25名
11月15日	障害学習（身体障害・手話）		
	立山中央小学校	5年生	約100名
11月28日	障害理解（手話）		
	立山北部小学校	5年生	約25名
2月15日	障害理解（身体障害）		
	釜ヶ淵小学校	5年生	11名

・福祉教育推進セミナー

第1回	福祉教育推進セミナー	6月1日	
	元気交流ステーション		8名
	「令和3年度活動状況報告・令和4年度計画について」		
	講師：富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏		
第2回	福祉教育推進セミナー（報告会）	2月21日	
	元気交流ステーション		37名
	報告：利田小学校、立山町社会福祉協議会		
	講師：富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 氏		

(8) 災害救援ボランティア活動支援事業

災害救援ボランティアセンターや避難所の運営、その他必要な機能等について考える。また、災害時に限らず、地域での困りごとに対応できる協力者を増やすことで、災害時の支え合い機能の強化・組織化を図ることを目的とする。

・災害救援ボランティア研修会

令和5年2月24日	元気交流ステーション	参加者	28名
講義	「災害救援ボランティアセンターの概要と役割の変化について」		
演習	「私たちにできる災害支援」		
講師	特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李 仁鉄 氏		

(9) 福祉教育サポーター養成確保事業

町づくりや福祉教育の推進を図ることを目的に、福祉教育サポーターの養成研修会を開催した。また、サポーター設置検討委員会にて、養成・設置に係る意見交換を図った。

・福祉教育サポーター設置検討委員会

第1回 養成計画 7月20日
第2回 事業報告・次年度計画 3月2日

・福祉教育サポーター養成確保事業（全5回）

受講者3名中／2名修了 いずれも会場は元気交流ステーション

※第1・2・3・5は、修了者のフォローアップ講座兼ねる

第1回講座 9月14日

講義「福祉教育の基本」グループワーク

講師 富山県社会福祉協議会地域福祉部

部長 池田 浩一郎 氏

第2回講座 10月17日

講義「生活困窮者支援」

講師 富山県弁護士会 西山 貞義 氏

第3回講座 11月12日

※福祉フォーラムと合同開催

講演会「地域共生社会の実現のために」

講師 富山大学学術研究部教育学系 准教授 野田 秀孝氏

第4回講座 12月18日

体験講座「フードドライブ」

第5回講座 3月2日

講義「福祉教育サポーターの役割・振り返り」

講師 富山県社会福祉協議会地域福祉部

部長 池田 浩一郎 氏

※その他、福祉活動の際に適宜修了者と連携し、福祉教育活動を推進

(10) 新型コロナウイルス感染者等生活支援(買物代行)事業

町在住で、富山県中部厚生センターから新型コロナウイルス感染による 自宅療養、または濃厚接触者として自宅待機を求められた方のうち、親族等から支援を受けることができない方に対し、食料品、日用品等の買物代行事業を行いました。

・利用者数 3名 ・ 6件

7. 居宅介護支援事業

ケアマネジャーによる適切なケアプランの作成、介護給付費の管理

要介護1～5 月平均利用者数 149名

介護予防 月平均利用者数 7名

8. 居宅介護等事業（ホームヘルプサービス）

(1) 要介護認定者への訪問介護 要介護1～5 月平均利用者 14名

総合 月平均利用者 15名

(2) 障害者への訪問介護	身体障害者	月平均利用者	2名
	知的障害者	月平均利用者	2名
	精神障害者	月平均利用者	9名
(3) 自立支援サービス		月平均利用者	1名

9. 日常生活自立支援事業

高齢者や障がいのある方に対して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理のお手伝いを行うことにより、安心して生活が営めるように生活支援員が援助を行った。

利用者 9名 生活支援員登録者 6名
 制度利用等相談件数 15件 相談援助件数 101件

10. 高齢者福祉推進事業

(1) みらいぶくつろぎサロン運営事業

元気交流ステーションに集約されている保健福祉総合機能を活かした誰もが集える常設型のサロンとして、引きこもりの防止や認知予防に関する活動を取り入れたメニューの提案、健康器具等の設置などを通して、積極的な社会参加、仲間づくり、生きがいつくり、健康づくりの一助となる機会を提供した。

元気交流ステーション2階大広間 サロン開催日数213日 延べ利用者数 4,226名

(2) 福祉バスを運行し、くつろぎサロンへの送迎及び福祉団体、地区社会福祉協議会等の諸行事の送迎を行った。

令和4年度 運行回数 延べ 130回 利用者数 延べ 703名
 令和3年度 運行回数 延べ 96回 利用者数 延べ 503名

11. 基金運営事業

- (1) 社会福祉事業振興基金の管理、運営
- (2) ボランティア基金の管理、運営

12. 共同募金配分事業

(1) ふれあいいいききサロンランチ活性化事業

高齢者ふれあいいいききサロン、子育てサロン等に対して講師の派遣を行った。

講師派遣：ハートビートライフ・オカ インストラクター他 延べ約40回派遣

(2) 支えあい（防災）マップづくり事業

住民同士のふれあいや支え合い活動を地図上に可視化するマップ作り及びその活用研修会を開催し、地域住民の支え合いの実績や生活上の問題を具体的に把握し、共助の仕組みを検討した。また、作成したマップの効率の良い活用を促すため、防災の視点を取り入れた。

- ・支えあいマップづくり実践 立山・利田・下段
- ・支えあいマップづくり入門 新川・五百石・上段・大森

講師：NPO 法人明日育 常務理事 長井 一浩 氏

立山地区	10月29日	岩嶽公民館	参加者16名
利田地区	10月29日	利田公民館	参加者16名
下段地区	11月19日	下段公民館	参加者10名
新川地区	11月19日	新川公民館	参加者25名
五百石地区	2月11日	五百石公民館	参加者55名
上段地区	2月12日	上段公民館	参加者20名
大森地区	3月4日	大森公民館	参加者41名

(3) 広報紙発行事業

社会福祉協議会だより「そよかぜ」の発行

年6回(奇数月) 全世帯配布

(4) 地域福祉・ボランティア活用啓発事業

町社会福祉協議会第4次地域福祉活動計画冊子を作成した。

(冊子作成の一部)

(5) ふれあい食堂運営事業

多世代交流促進、居場所づくりを目的に町内10地区社会福祉協議会と連携して開催した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、テイクアウト型で開催。

開催状況

利田地区	感染者増により急遽中止
下段地区	公民館行事と共催
東谷地区	テイクアウト品の配布のみ
五百石地区	レクリエーション協会・町社協と共催
釜ヶ淵地区	テイクアウト型で開催
立山地区	テイクアウト品の配布のみ
上段地区	公民館行事と共催
大森地区	テイクアウト品の配布のみ
新川地区	テイクアウト型で開催

(6) 地域歳末たすけあい助成事業

町内10地区社会福祉協議会へ助成し、歳末時期に合わせて、見守り訪問や3世代交流等の推進を図った。

(7) 地域食堂支援事業(テーマ型募金事業)

居場所づくりや多世代交流促進を目的とする活動の支援として、環境整備用品、備品等を配備した。

1.3. 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

低所得者世帯等へ生活福祉資金等の貸付・相談を行った。

新規相談件数 35件 取扱件数 8件 継続相談件数 93件

新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した世帯へ貸付・相談を行った。

貸付決定件総数（令和4年9月30日受付終了）

緊急小口資金 128件

総合支援資金 81件 総合支援資金（延長） 17件 総合支援資金（再貸付） 27件

貸付総額 8,427万円

（2）生活困窮者自立促進支援事業

富山県東部生活自立支援センターと連携して、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者に対し支援を行った。

町報や社協だより「そよかぜ」に相談日を掲載し広報に努めた。

（3）福祉のフリーマーケット事業

立山町との共催事業として、学生服や生活用品等の遊休品を取り扱い、生活困窮者等が必要な生活用品を安価で習得できるフリーマーケットの運営を行った。

販売期間：令和4年7月30日（土）～令和4年10月29日（土）

納入期間：令和4年7月29日（金）～令和4年10月28日（金）

出品数639点 販売数473点 返品数166点

（4）立山町産米等活用生活支援業務

立山町との共催事業として、物価高騰等の問題に直面している子育て世帯への支援と町内産米等の消費拡大を目的に、お米・味噌の配布を行った。

配布期間：12月～2月 配布対象：対象の子育て世帯（子が小・中学校に在学している世帯）

配布期間：2月～3月 配布対象：その他支援を必要とする世帯

1.4. 出逢い応援事業

サポートセンター「おむすびくらぶ」を設置し、結婚相談や情報交換を通して出逢いの場を提供し、結婚への支援を行った。

・センター運営体制

推進委員15名 支援員23名（プランナー8名・アドバイザー9名・サポーター6名）

センター長1名（社協事務局長兼任） コーディネーター1名（社協職員兼務）

登録会員198名（内訳：男性117名・女性81名 3月31日現在）

※推進委員会の設置

円滑な運営と効果的な事業推進を図るために設置

立山町内で活躍する企業や団体、支援機関、学識経験者及びその他会長が必要と認めた者で組織し、立山町社会福祉協議会会長が委嘱するものである。

※支援員の配置

支援員は、地域活動に参加している者で、結婚への支援及び地域の担い手育成に理解と関心を

持ち、その役割遂行に支障のない者を立山町社会福祉協議会会長が委嘱する。

・結婚相談日の開設

アドバイザーによる結婚相談を第4木曜日午後、第1・第3土曜日午前・第1・3木曜日夜、第2・第4火曜日夜に開設し、登録会員への結婚相談等に応じる。

元気交流ステーション相談室 相談件数（窓口） 46件
（電話） 112件
（メール） 8件
マッチング対応 10件

・成婚カップル 1組（累計8組）

・推進委員会の開催 関係機関への広報啓発及びセンターへの指導助言

第1回推進委員会

7月22日 元気交流ステーション 参加者 9名

第2回推進委員会(報告)

3月 1日 元気交流ステーション 参加者 8名

・支援員研修会及び情報交換会の開催 結婚支援に対する必要な研修(婚活支援、情報セキュリティ、コミュニケーション等)を開催し、支援員の資質向上を図り、支援員間の情報共有の場を提供

第1回支援員情報交換会

4月13日 元気交流ステーション 参加者21名

第1回支援員研修会・第2回支援員情報交換会

6月22日 元気交流ステーション 参加者17名

第1回全体研修会

7月22日 元気交流ステーション 参加者22名

第3回支援員情報交換会

7月22日 元気交流ステーション 参加者16名

第2回支援員研修会・第4回支援員情報交換会

8月26日 元気交流ステーション 参加者15名

第5回支援員情報交換会

11月21日 元気交流ステーション 参加者14名

第2回全体研修会

2月12日 元気交流ステーション 参加者46名

第6回支援員情報交換会

3月24日 元気交流ステーション 参加者 8名

・事業啓発イベントの開催

春イベント：春出会いカフェ

4月23日 20代～40代男女対象 ヘルジアンウッド 参加者25名

夏イベント：立山産米粉でパン作り&コーヒータイムを楽しもう

7月2日 20代～40代男女対象 元気交流ステーション 参加者17名

秋イベント：Wパークで楽しもう

9月23日 20代～40代男女対象 グリーンパーク吉峰 参加者18名

冬イベント：ちょっと早い婚活クリスマス①

11月27日 35歳～49歳男女対象 元気交流ステーション 参加者16名

ちょっと早い婚活クリスマス②

11月27日 25歳～39歳男女対象 元気交流ステーション 参加者17名

コミュニケーション講座

男性向け 11月27日（冬イベント前） 元気交流ステーション 参加者17名

女性向け 11月27日（冬イベント前） 元気交流ステーション 参加者16名